最終決算任ザキ不動

「二番札」導入で、ユニーク建設首位に次ぐ

週刊ドボク

発行所：
Chijiwa Publishing
緑が丘1号館
発行人：
曾川宏彬

2019年1月25日第五回最終入札を終え、全国60箇所の建設プロジェクトの受注企業から最終決算が発表された。

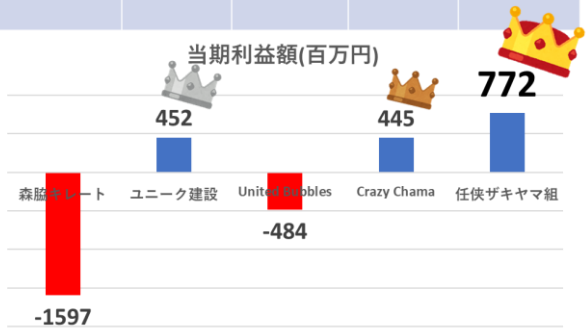
その結果、第一回入札当初から独走を続けてきた任侠ザキヤマ組が7億7000万を超えるの利益を上げ、見事首位の座を守り抜いた。また、第四回入札まで、第三位と不調であったユニーク建設は、第五回入札で初めて導入された「二番札」制度を追い風に、Crazy Chamaににじり寄る形で追い抜き、首位に次ぐ格好となった。一方United Bubblesと森脇キレートは「二番札」の波に乗れず赤字を計上した。

第五回入札では、福島第一原発解体工事や新千歳空港耐雪強化工事など予想純工事費70億超の事業が注目を集めた。また、一秀ビル新築工事や千々和湾干拓工事、岩波湾拡張工事などの空前絶後の超大型工事では、第四回以降入札数を制限されている任侠ザキヤマ組以外の四社全てが入札を行い、各社しのぎを削る展開となった。

また、第五回入札では、適切な入札価格の維持による企業育成を目指した落札者決定システムとして、最低入札価格を提示した会社ではなく、最低入札価格の次に低い入札額を提示した会社と契約を行う「二番札」制度が導入された。起死回生をかけ、ユニーク建設とUnited Bubblesが最終入札の全事業に入札を行い、互いに取り合う展開となったが、13件の事業のうち8件を獲得したユニーク建設に、「二番札」獲得争いの軍配が上がった。

最終的な格付けは、任侠ザキヤマ組が☆3つ、ユニークが☆2つ、ユニーク建設とUBが☆1つであった。工事受注については任侠ザキヤマ組が受注件数22件、受注実績は1330億と他と二倍近い差をつけた。逆に森脇キレートは受注件数最下位となったほか、事故率が22%など、体制が疑われる事態となった。

	森脇キレート	ユニーク建設	United Bubbles	Crazy Chama	任侠ザキヤマ組
所在地	関西	関東	北日本	関西	関東
社章					
最終格付け	☆☆	☆	☆	☆☆	☆☆☆
受注実績	450億	700億	370億	660億	1330億
受注件数	9件	10件	7件	8件	22件
事故率	22%	10%	0%	0%	5%
当期利益額	-15億9700万	4億5200万	-4億8400万	4億4500万	7億7200万



独占インタビュー
任ザキ・森脇キレート

現場の小田切氏

最終決算を終え、見事に単独首位に輝いた株式会社任侠ザキヤマ組元代表取締役社長小田切氏より、本入札ゲーム勝利した際の心境とその戦略についてのコメントが書面にて発表された。以下ではその抜粋を記載する。

小田切氏「弊社は、これまで…（中略）…ただ1人でも多くの人々の笑顔を形作りたい一心で…（中略）…1位を獲得できたことは恐悦至極である。社名の『任侠』とは本来…（中略）…今後も我が国が少しでもよりよくなるように活動させていただく所存である。…（中略）…弊社の入札ゲームの戦略は、『全獲り』『薄利多売』『単純化』の3点に集約され、…（中略）…自問自答を繰り返す毎日である…。」

このコメントの全文のほか、入札ゲームについて思うことについての意見なども発表された。別紙を参照されたい。

また、最終決算の結果、およそ15億の損益を計上した上、事故率も20%を超えるなど、前代未聞の経営業績となった森脇キレートの元経理担当邉木薗氏より、本件に対する謝罪と今後の方針を示唆するコメントが発表された。

邉木薗氏「この度は、度重なる事故により多くの皆様の安全・安心を損い、ご心配・ご迷惑をおかけ致しましたこと、誠に申し訳ありませんでした。後輩たちは不安よな。森脇、動きます」

元代表取締役社長森脇氏は一体どこへ行ってしまったのか？経営再建の先行きは不透明だ。

入札ゲームを終えて
千々和先生のメッセージ

赤字がリアルだったらそれが社会としてハッピーか。食うに困りどうなったか。完全自由競争が行き着くのは勝者と敗者の二極化であり、社会不安を生む、かといって共産主義では発展が阻害され、これも社会不安につながる。公共調達とは、両者のバランスを取って、理想社会を具現化していく手法ともいえる。

エントロピー増大の法則。世の中のすべてのものは、乱雑さを増す方向へ、ばらばらになろうとする。我々生物もまた、本来、物質の出たり入ったりを絶えず繰り返している、単なる物質の「澱み」に過ぎない▼その生物を生物たらしめているのは、生命の体に内的に生み出される、ある物理的な「秩序」である。そしてこれによって保たれる生物としての定常状態のことを「動的平衡」と呼ぶ▼近年、建設業界では様々な潮流が起こっている。建設業はもはや、インフラそのものを提供する時代ではなく、インフラの持つ機能を提供する時代なのだとも言われる。時代の岐路を前に、澱む建設業界。この生命体もまた、新たな「動的平衡」状態を迎えようとしている▼単なる建設メーカーから生まれ変わるために必要な、内的な「秩序」とは一体何なのか？IT系の企業の存在もある中で、建設会社はどう振舞えばいいのか？▼これまでインフラを担ってきたという矜持を持ち、新時代の建設業の姿を改めて問い直す。キャスティングボードをかけた戦いは、もうすでに始まっている。

建声人語

独自分析！

オークション理論による説明！

「二番札」が入札行動にもたらす影響

第五回入札では、二番目に低い入札価格で入札した会社が落札する「二番札」が導入された。異例ともいえるこの制度の導入が、各社の入札行動にもたらす影響は一体何だったのか。

経済理論の一つ、オークション理論によれば、建設入札は他者に評価価格を提示しない状態で入札者を決める封印型オークションに分類される。この封印型オークションの中でも第四回までの最低価格による一般競争入札方式は、第一価格方式に分類される。この方式では、受注できるかどうかは、いわば運任せとなるので、ギャンブル性が高く、入札者はこの状況を避けようとするので、談合が起きやすくなるという。一方今回導入された「二番札」は、第二価格方式と呼ばれ、抜け駆けをしてもしょうがないので、自分の評価値を正直に入札しようというインセンティブが高まり、逆に談合状態の抑止になるのだという。本入札ゲームでこの効果が現れたかどうかは疑問だが、いずれにせよ、入札における「目配せ」の存在を確認できたという点で、本入札ゲームで「二番札」を導入したことには一定の意味があったと言えよう。

六本木にオープン
日本初！極上のRHA体験
CLUB CHAMA'S
新規セラピスト募集
「タノシイデスネー」「ワカラナイ」
使用上の注意をよく読み、正しくお使いください